

平成27年度 学校法人三幸学園 大阪ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：校長 徳 幸道

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 野村 英司

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

- ・主体性を育む教育
- ・退学率の低減

② 学校関係者評価委員会コメント

◆平成27年度より主体性を育む教育や退学率防止に対する取り組みを強化している。

統括メンバーで大阪Wの評価を付けたが、教育理念や人材育成度の浸透は出来ているがクラスによつての落とし込みの差がある。

◆保護者にも協力を仰ぐ為に保護者会や担任より保護者に電話掛け（ご挨拶）を実施している。

◆保護者の方々に保護者会のみでなく、定期的に本校で実施した行事などの報告を行い、その中で学校のミッション・ビジョンや取り組みを認知して頂く。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・教育理念・人材育成象の理解はされているが、クラスによって浸透度にバラつきがある。

② 今後の改善方策

- ・生徒の目に付く場所に、掲示物を掲示。
- ・保護者への発送物等に教育理念・人材育成象を記載した物を送っていく。

③ 特記事項

・入学前の保護者会、入学前オリエンテーション、オープンキャンパスなどにて、理念を周知する機会を増やしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ◆保護者にミッション・ビジョンの周知度は低い。
- ◆就職する前に保護者の方に対しても美容業界の内容について説明しなければ、近年保護者の意見で離職率に繋がる状況がある。
- ◆保護者は子供が叱咤激励を受けた際、なぜ叱咤激励をするのか明確にした上で教育するのが今の時代求められているので、「何の為」に業界についての講話や指導・将来構想に向けた授業を行っているのか説明する必要がある。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・若手メンバーが多いため仕事の目的や本質を理解せずに業務を進めている。
- ・業務の優先順位のつけ方にも問題がある。

② 今後の改善方策

- ・メンバー育成を常に意識して業務にあたる。
- ・OJTで上記の課題になっている点を中心に指導を行っていく。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ◆若手メンバーが半分以上いる状況。ただ仕事をこなしている様子が多く見受けられる。
その為業務の優先順位が弱い。(全体業務<個人業務)
OJTというメンバーとの面談を設け、個々の課題点などの指導を行っている。
- ◆コンプライアンスの中で教育現場が求めている事を浸透させる必要があるので、学園全体でコンプライアンスDVDを視聴し社会的規範などの浸透をと統一を図っている。
- ◆若手メンバーの育成に力を注ぐ。OJT面談も勿論だが、それ以外でも「何の為」に業務を行うのか統括メンバー筆頭に伝えていく。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・現場で求められる知識、技術を考えると現状のカリキュラム・シラバスの内容を見直す必要がある。

② 今後の改善方策

・29年度入学生より、カリキュラム変更。

③ 特記事項

- ・三幸学園独自の教育手法であるアクティブラーニングを導入し、能動的学習を積極的に行っている。
- ・結婚式場のパル法円坂様と産学連携を図り、実際の式場での授業を実施。
- ・企業インターンシップを導入し、学生が在学中から現場経験を積めるような仕組みづくりを行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ◆カリキュラム自体が現場の求められる内容と一致しているかどうか課題点。
全国的な部分を見ると統一できておらず、ばらつきがある状態だが、今後カリキュラムの内容や授業毎の達成度について再度メンバーに落とし込む必要がある。
- ◆インターンシップに行き業界に興味を無くすので、教育現場の中で、授業とインターンシップの違いやギャップを徹底して落とし込むのとインターンシップの内容も細かく説明しなければいざインターンシップに参加しても出戻りする傾向が見られる。
- ◆学校で学ぶ事と現場で教わる内容の部分に相違があれば不信感を抱く。
- ◆インターンシップに行った生徒から半期毎に振り返りを行っているがその内容を全国共有はしていない状況。まずはそれぞれの学校毎に次年度の運営に向けての振り返りとして対応している。
- ◆美容業界は結果主義なので、人柄や働きやすさなどを求めて仕事を継続していくのは正直難しい。結果を求めない従業員が離職している状況。美容業界が求める人物像をインターンシップに行かせる前に事前指導として取り組むべき。
- ◆入学後に保護者をお招きし、就職活動前やインターンシップ前など現場の雰囲気や卒業生の講話など業界のイメージを説明した上で保護者にも協力して頂く。
- ◆保護者への定期的な報連相、インターンシップの見直し、美容業界が求める人材育成の指導を行うカリキュラムの見直しも引き続き行う。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
就職率の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・生徒指導が担任任せになっており、学校全体で行う風土が出来ていない。
- ・クラス間格差

② 今後の改善方策

- ・学科会、教科会を通りてクラス状況、生徒状況の共有を行い学校全体で指導を行って行く。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ◆就職率：WP：96.4% BC:96.9%（平成28年4月1日付け）
検定率：全国平均より基本高い状況。

退学率：H26 と H27 で 1 年生は昨対比で+8.8%、2 年生は-1.7%

◆退学率の大きな原因は進路変更が一番多かった。

対策案として学科会を今年度より実施し、個の生徒状況報告に多く時間を裂いて全体でクラス状況を共有している。

◆退学率より就職率のほうが世間の目は危惧する。今後就職率が現在より下がる傾向である中世間の目に映りやすい方に重きをおくべきなので、退学率ばかりに捉われないようにする。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・保護者との連携強化が課題。入学前に本校の教育方針を理解して頂き、保護者と連携して学生のサポートをしていきたい。
- ・離職率の把握が出来ていない。

② 今後の改善方策

- ・保護者会への参加促し強化。
- ・卒業後のサポートの強化。卒業生向けHP『SANKO Link』の利用促進をPR。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ◆離職率や退学率など過去に捉われるのではなく、今現在貢献している卒業生をピックアップするべき。
- ◆離職率も気になる部分だが、人間関係が今の社会で最も重視される状況。
人間性が出来ていても技術が伴わなければ指導する、その指導に耐えられず離職するケースが見られる例えば卒業しても3ヶ月間は相談窓口を設けるなどの対策を検討していく。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・大規模自然災害への備えを充実させる。

② 今後の改善方策

- ・携帯用ハザードマップの作成中。

③ 特記事項

- ・企業インターンシップを導入し、在学中から現場経験を積める仕組みを取っている。
- ・ハワイでの海外研修を行っている。【希望者のみ】

④ 学校関係者評価委員会コメント

◆特になし

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・特に大きな課題はない。

② 学校関係者評価委員会コメント

◆特になし

(8). 財務

【評価項目】	適切:4
	ほぼ適切:3
	やや不適切:2
	不適切:1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

- ・社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

◆特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特に大きな課題は無い。

② 学校関係者評価委員会コメント

◆特になし

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・特に大きな課題は無い。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

・自治会と連携し、地域清掃を月1回行っている。
・地域のイベントのボランティアを積極的に実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

◆特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度はより主体的な学生を育成できるような取り組みをすると共に退学率の低減を図っていきたい。

また、個々による指導の差を無くし学校全体で統一した指導を行って行く。

平成 29 年度より新カリキュラムを導入するので、1つ1つがしっかりと浸透するように働き掛けていく必要がある。

自己評価の結果は概ね問題ないが、細部をしっかりと点検し、地域や業界から必要とされる学校になるために課題をしっかりと把握し学校を運営していく必要がある。

学校関係者評価委員会コメント

- ◆生徒に対する指導の相違がある事で、相談窓口が変わってくるので全員が共通した教育指導が出来るよう均一化する。
- ◆教員がミッション・ビジョン・人材育成像など意識した上で生徒指導・学校運営をする事が大切。またコミュニケーションを定期的に図る事も大切なので、面談等も継続的に行う。
- ◆最後までやり遂げようと志を持ち取り組む生徒が少なくなっている。
保護者も自身の娘に無関心なので、職業観以前の人としての育成をする事が必要。
楽しい事のみでなく、辛い事も生徒育成する上で伝え人材育成と、学校のみで教育できない部分については企業様に協力して頂き、色々な方向で教育する。